

中部日本ニュース

シネスコ版

38.7.26

高知新聞ニュース No. 332
 新愛媛新聞ニュース No. 160
 中国新聞ニュース No. 173

本縮に同じ

No. 497

一、配置転換

—内閣改造

池田首相は七月十六日夜、閣議で本年度、生産者米価を了承してから、本格的な「七月人事」に着手した。先づ七月人事の要である党三役については、従来の「三派三役」にとらわれず、「党近代化」を唱えて、前尾繁三郎氏を幹事長に、総務会長に藤山愛一郎氏、政調会長に三木武夫氏を推し十七日、党本部の臨時総務会で正式の決定があり党運営体制の強化につとめました。この後いよいよ内閣改造に着手、大野副総裁、新しい党三役を交えて、人選に努め、今度の人事の最難関といわれた佐藤栄作氏は首相との会談の結果内閣要請を受諾、北海道開発長官、科学技術庁長官、オリンピック担当相のポストに着くことが決定、留任の河野建設大臣と共に閣内で「挙党融和」にこれつとめることになりました。今度の人事に当たっての指標は、適材適所、挙党融和主義といわれ、来年末衆議院の解散問題、日韓問題、米原子力潜水艦寄港問題等々を控えて、政局は国民の強烈の注目を受けて進むことでしょう。

一、猛打の応酬

—夢の球宴 東京

ファン待望のプロ野球オールスターゲームが去る二十二日東京後楽園で幕がひられました。午後七時巨人城之内投手の第一球が投ぜられ、試合は早くも二回王のホームランより始めて全セが打者一巡して三点をあげれば、そのうら全バは同じく打者一巡の四点をたたき出し、文字通り夢の球宴にふさしい猛打の応酬を展開しました。一点リードされたまま全セは九回どたん場で大洋近藤和が稲尾から球宴初のサヨナラ、2ラン・ホームを放ち三年振りで勝ち星をあげました。

アイモ風土記

一、生きている昔

—津和野 島根

中国山地の谷間にかこまれた町、津和野は、その昔城下町として栄え、山陰・山陽を結ぶ要衝の地であった。

緑につつまれ、一際美しいこの町を人は名ずけて山陰路の「小京都」だと云う。

なるほど、街は城下町の特有の白い低い土壁にかこまれた武家屋敷が多く、時折琴の音が聞こえて来る物静かなたたずまい。そしてこの町の両側の側溝には、清水が流れ、今では五〇〇匹もの鯉が放し飼いにされています。戦争中の食糧難の時代にも手をつけなかったと云われるほどにコイを愛しているのです。また現存する由緒ある祇園会の鷺舞はこの地のみ生残って来ました。昔から津和野は歴史の町として古い文化の残映をとどめる城下町でもあったのです。だがこうした古い文化はやがて明治とともに近代文化の発祥の地ともなっていたのです。

過去の文化の伝統は、さながら山間の城下町とは思われない文豪森鷗外を生んだのです。しかし町の人は、何かと云えば「旧藩時代」を偲ぶ懐古趣味は、やがて文豪森鷗外も故郷へ帰らさなかつたのです。何故ならば、過去の歴史は今なお生きている昔の面影を津和野は町をあげて鷺舞に隠居の枯寂にひたって伝統文化を展開する時限を知らないのです。

678円

269円

297円

112円